

22年度統合予定の樽商大、帯畜大、北見工大

食など4分野 共同研究

2022年4月の経営統合を目指す小樽商科大と帯広畜産大、北見工業大は来年度にも、食、医療、観光、スポーツの4分野で共同研究を始める。商農工の各大学の強みを結集させ、企業や道内自治体と連携。道内企業などの成長や海外進出を後押しする。

小樽商大によると、道産農畜産物の輸出を促進する食の分野

では、帯畜大が品種改良や食味の改善、加工を、北見工大が鮮度を保つための輸送技術の研究を、小樽商大が市場調査や戦略立案をそれぞれ担当する。観光分野ではビッグデータを活用し、北見工大が訪日外国人客の動向を分析する情報技術を開発。小樽商大が分析し、観光振興策などに役立てる計画だ。3大学は本年度から道内や東

来年度にも

京、大阪で食、医療、観光、スポーツの4業界、小樽商大OBが経営する企業などに対し、ニーズ調査をしたり、共同研究を提案したりしている。担当する小樽商大の北川泰治郎教授(商学・経営学)は「技術が進んでいる道外の企業も巻き込みながら、道内企業の競争力向上に役立たい」と強調。成果を事業化する大学発ベンチャーの起業も進めたいとしている。

各大学の研究データを一括管

「強み」結集 企業を支援

理し、企業や自治体に提供する「オープンイノベーションセンター」も設置する予定。小樽商大の江頭進副学長は「3大学の知見を総合的に活用することは、統合を見据えた連携の最大の効果。北海道の特長を生かした産業活性化につなげたい」としている。

3大学は昨年5月、運営法人の統合を目指す発表。少子化が進む中、各大学の経営機能や業務を集約し、運営費などを研究分野に重点的に充てる。各大学名やキャンパスは存続する。

(前野貴大)